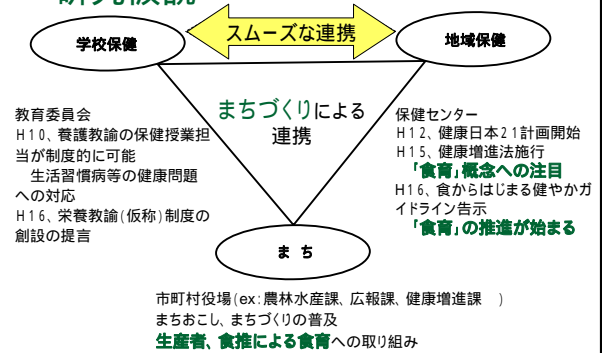


まちづくりの視点からみた 食育に関する 学校保健と地域保健の連携

山口県立大学看護学部4年
01041010 岸野香織
01041022 高柳和江
01041043 山藤美由紀
担当指導教員 中本稔 助教授

■研究仮説



■まちづくりの視点

■ヘルスプロモーションとは、
人びとが自らの健康をコントロールし、改善することができるようにするプロセスである。
(Kickbusch, 1984)



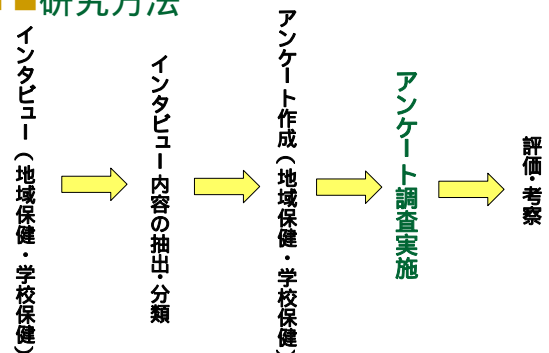
■健康づくり計画

■健康づくり計画とは、
健康日本21計画で示された9つの分野の健康課題への取り組みと具体的な目標を地域独自に直した住民主体の健康づくりを推進するための計画である。

■食育とは

■食育とは、
単に望ましい食習慣の知識の習得だけでなく、食卓での団らんを通じた社会性の育成や、食文化の理解なども含む幅広い教育である。(文部科学省より)

■研究方法



■ アンケート調査対象

- 地域アンケート
 - 山口県内全56市町村保健師
 - * A市は市町合併以前4地区に分かれて管轄されていたので4地区別々に発送を行い、回答があった1地区は1市町とカウントした。
- 学校アンケート
 - 7市町、51カ所の学校の養護教諭
 - (インタビュー実施4市町、研究者の出身地区B市、C市、F町の3市町の計7地区)
 - * A市は特定の1地区(小学校1校、中学校1校、計2校)がモデル事業を実施していることを考慮し、その1地区のみを対象としたが、その他の6市町は全公立小中学校を対象とした。

■ 学校側との連携の内容

(地域アンケート)

- 性教育や生活習慣病予防などをテーマとした授業への参加
- 保健事業の日程調整(予防接種等)
- 学校保健委員会への参加等



単発的な関わりが多い

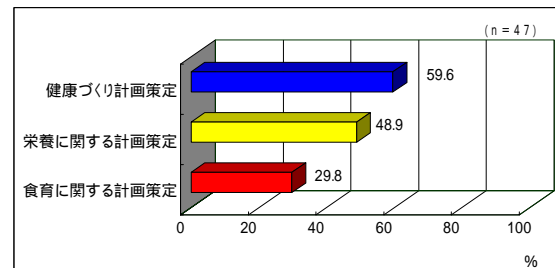
■ 連携の阻害因子

(地域アンケート)

- 連絡調整を行う機関や仕組みが定まっていない
- 制度が縦割りで異なるため
- 学校保健活動の内容や健康課題がわからない
- 話し合いや情報交換を行う場がない

■ 健康づくり計画の策定状況

(地域アンケート)



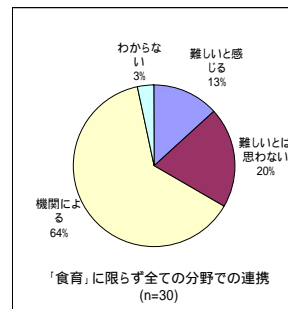
■ 学校側での食育活動

(学校アンケート)

活動内容	職種・機関	理由
給食や家庭科で栄養・食事指導	栄養士	専門的立場からの栄養指導
生活習慣病予防・朝食摂取指導	食推保健センター	専門的立場からの指導
野菜作りについての講話	生産者	野菜嫌いをなくす 食事の大切さを学ぶ 地域の方々との交流
歯の健康指導	歯科医	専門的立場からの指導

■ 地域側との連携の現状と阻害因子

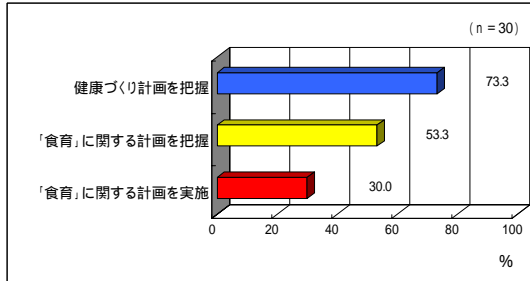
(学校アンケート)



< 連携が難しい理由 >

- 学校の授業時数の問題
- 他機関との日程調整
- 財政難のため講師料等厳しい
- 学校数が多すぎて行政側に一度に連携の申し出があればパンクするのは目に見えている等

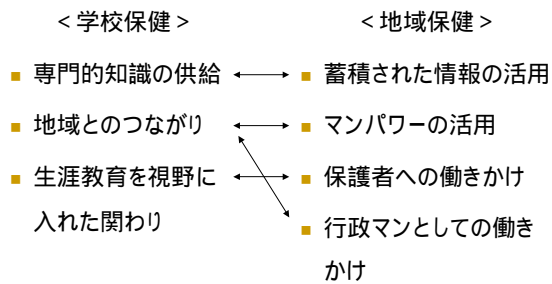
■学校側の健康づくり計画の周知 (学校アンケート)



■地域側・学校側の比較 (地域・学校アンケート)

	地域側	学校側
連携の現状	予防接種に伴う連携 単発事業への参加	栄養士と連携して食育実施 保健師、医師と連携して性教育実施
要望	ライフステージに合わせた健康づくりが必要 (少年期:適切な食習慣を身に付ける) (青年期:欠食・偏食・孤食に気をつける)	生涯教育を視野に入れた関わり 連携しながら食育に取り組んでいきたいと考えている
健康づくり計画の周知	健康づくり計画の中に「栄養」と子どもの「食育」に関する計画があるところは少ない	子どもの「食育」計画を把握し、食育を実施しているところは少ない
生活行動調査		朝食欠食調査実施 血液検査実施

■学校・地域が考える連携役割・必要性の比較



■まとめ

- 継続性をもたせた連携事業をおこなう
- 従来の単発的な関わりを大切に
- まちづくりの視点に立った連携の準備はできていることを地域側、学校側が共に認識する
- 健康づくりに関係する機関を介して健康づくり計画の啓発をおこなう
- 食推、生産者による地域に根ざした食育活動を推進する

ご清聴、
ありがとうございました。

